

試験報告書

依頼者 株式会社 ヤマシタキカク

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 ORPウォーター 酸性イオン水

表題 ウイルス不活化試験

2015 年(平成 27 年)11 月 16 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

ウイルス不活化試験

1 依頼者

株式会社 ヤマシタキカク

2 検体

ORPウォーター 酸性イオン水

3 試験概要

検体にネコカリシウイルスのウイルス液を添加，混合し，室温で30及び60秒間作用後に作用液のウイルス感染価を測定した。また，あらかじめ予備試験を行い，ウイルス感染価の測定方法について検討した。

なお，ネコカリシウイルスは，細胞培養が不可能なノロウイルスの代替ウイルスとして広く使用されている。

4 試験結果

1) 予備試験(中和条件の確認)

細胞維持培地で作用液を10倍に希釈することにより，検体の影響を受けずにウイルス感染価が測定できることを確認した。

2) ウイルス感染価の測定

結果を表-1に示した。また，使用細胞及び培地を表-2，試験方法の概要を表-3に示した。

表-1 作用液のウイルス感染価測定結果

試験 ウイルス	対 象	log TCID ₅₀ /mL		
		開始時	30秒後	60秒後
ネコカリシ ウイルス*	検 体	—	<1.5	<1.5
	対照(精製水)	6.5	—	6.7

TCID₅₀: median tissue culture infectious dose, 50 %組織培養感染量

作用温度: 室温

<1.5: 検出せず

ウイルス液: 培養液を精製水で10倍に希釈

* ノロウイルスの代替ウイルス

表-2 使用細胞及び培地

使用細胞	CRFK細胞[大日本製薬株式会社]
細胞増殖培地	10 %牛胎仔血清加イーグルMEM培地「ニッスイ」①[日水製薬株式会社]
細胞維持培地	2 %牛胎仔血清加イーグルMEM培地「ニッスイ」①

表-3 試験条件

試験ウイルス	<i>Feline calicivirus</i> F-9 ATCC VR-782(ネコカリシウイルス)
ウイルス液	細胞培養後のウイルス培養液を遠心分離して得られた上澄み液を精製水で10倍希釈
作用液	検体1 mLにウイルス液0.1 mLを添加
作用条件	室温, 30及び60秒間
中和条件	細胞維持培地で10倍希釈
対照	精製水
感染価測定方法	TCID ₅₀ 法

以 上